

浜松バッハ研究会演奏会

無伴奏合唱への誘い

モテットBWV225 (J.S.バッハ)

モテットBWV229 (J.S.バッハ)

4声のミサ (W.バード)



表紙図案 今村英男

1994. 6.12(日) 於：遠州栄光教会

主催：浜松バッハ研究会
後援：浜松市教育委員会

御挨拶

本日は浜松バッハ研究会演奏会「無伴奏合唱への誘い」にご来場いただき誠にありがとうございます。1985年にバッハ生誕300年を記念して活動を開始した私達ですが、早いもので9年の歳月が経ちました。この間、指揮者に三澤洋史氏を迎え、バッハ作曲「ミサ曲口短調」「クリスマス・オラトリオ」「ヨハネ受難曲」やヘンデル作曲「メサイア」等のオーケストラ付きの大曲を演奏してまいりました。

今回は趣を変えまして無伴奏合唱の作品を取り上げました。いつもはオーケストラやソリストの助けを借りて歌っていましたが、合唱のアンサンブル力を高めるため敢えてこのバッハの難曲に取り組みました。そしてバロックより遡りまして、無伴奏合唱曲の宝庫、ルネッサンス時代の作曲家バードも取り上げました。まだまだ未熟な点ばかりの私達ですが、どうぞ最後までごゆっくりお聴きください。

さて浜松バッハ研究会もいよいよ十年目を迎えます。これを機会に浜松バッハ研究会の飛躍の年としたいと願っています。折しも「音楽の街」浜松のシンボル、アクトシティも完成いたしますが、来年はその素晴らしいホールでバッハ音楽の集大成「マタイ受難曲」全曲を演奏しようという計画です。今後も皆様の変わらぬご支援をお願いいたします。

最後になりましたが、本日ご来場くださいました皆様、常日頃より私達の活動を支えてくださっている皆様、そして本日快く会場を提供してくださいました遠州栄光教会の皆様方に、会員一同心から感謝いたします。

浜松バッハ研究会代表 早川徳次

***** 上演曲目 *****

W.バード「4声のミサ」

休憩

J.S.バッハ：モテト「来たれ、イエスよ、来たれ」BWV229

J.S.バッハ：モテト「主に新しき歌を歌え」BWV225

***** 出演者一覧 *****

指揮：三澤洋史

群馬県出身。国立音楽大学声楽科卒業。在学中より指揮者を志し、故山田一雄氏に師事。その後ベルリンに渡り、ベルリン芸術大学指揮科を首席で卒業。帰国後はオペラ指揮者としてデビュー。二期会音楽スタッフの中心的存在として活躍。二期会合唱団を中心とした我が国の合唱指揮者としての地位は、今や不動のものとなっている。サバリッシュ、ホルスト・シュタインなど外来指揮者からの信頼も厚い。バッハに深く傾倒し、「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」「口短調ミサ曲」などを全て暗譜でレパートリーに持つ。声楽を伴うオーケストラ作品の全ての分野に精通する。

合唱：浜松バッハ研究会合唱団

ソプラノ：井浦芙蓉子	今村陽子	香田美湖	丹羽多美子	早川実花	日置すみれ
アルト：木山道子	野寄友佳子	水谷逸子	カウンターテナー：戸島準一郎	早川徳次	
テノール：高原慎一	寺尾一行	丹羽哲也	萩野 潔		
バス：青木繁光	生駒修治	磯貝光善	内海直人	小川貴範	小貫勇作 和田史和

バッハの音楽：三澤洋史

バッハの音楽は革命的である。だが革命的である事を理解する為には、我々には現代からワーグナーやベートーヴェンのむこうにバッハを眺めるといった視点を一度捨てなければならない。まったく当り前の事であるが、バッハの時代にはベートーヴェンもブラームスもまだ存在していなかった。バッハがどのようにしてバッハたり得たかを知る為には、我々は彼の生きた時代を知る必要がある。たとえばアルンシュタットの教会オルガニストであった若きバッハが、リュベックでのブクステフーデのオルガン演奏を聴く為に休暇を取って旅行し、華やかな演奏に刺激されて帰った後、当時としては前衛的な手法でコラルの伴奏して民衆のひんしゆくをかったという話を聞けば、大天才バッハといえども、時代の中に生き、時代の音楽的環境の中で自らの語法を選び取っていったことがわかるのである。バッハはよく、バッハ以前の音楽を集大成し、バッハ以後の音楽の流れを作ったと言われる。後者はバッハの影響を直接受けたベートーヴェンやブラームスの存在によって広く知られているが、前者の意味を深く理解する人は少ない。実際にはバッハがそれ以前の音楽を集大成したというのとはちょっと表現が違う。正確に言えば、偉大なるバッハは、彼以前の全ての音楽語法を手中におさめ、これを彼の個性の中で自在に操り、呈示する事によって全く新しい表現方法を獲得したという事だ。ブランデンブルク協奏曲の第5番は、バロック協奏曲のリトルネルロの様式にしたがいがながら突如としてチェンバロが独走し始める。一体どこまで行ってしまうのかと思うほどバランスを欠いた独走ぶりに思わず笑ってしまう。こうした様式の解体寸前、あるいは既に様式自体をパロディ化したと思うほどの大胆な表現がバッハの魅力なのである。彼はフーガの大家と呼ばれるが、彼のフーガは決して模範的なフーガではない。平均律のホ短調フーガのようにフーガでは厳禁になっているユニゾン！が突然現われたりするし、そもそも彼のフーガは基本的に心情の発露であるエピソードへの口実であると言ってもいい。

バッハの音楽は常に革命的なのだ。それはそれ以前の同じ様式を持つ曲と比べてみるとよくわかる。ウィリアム・バードのミサ曲はいわゆるモテット様式で書かれている。歌詞の1センテンスに対し1つのテーマが与えられ、ひとしきり模倣や展開が行われた後、次のセンテンスに移ってゆくというこの様式を使って、バードはルネサンスらしい静澄な均衡にあふれた世界を作り出している。しかし同じ語法を使ったバッハのモテットの世界のなんという違いであろうか。彼のモテットは彼以外の誰のものとも全然違っている。彼の特徴はまず何よりもその爆発的ともいえるリズムの表出にある。彼は祈りの音楽に世俗音楽のダンスのリズム感を持ち込んだのだ。

それはゆっくりな曲においても同じである。「来たれ、イエスよ」の冒頭では Komm, と3回呼びかけるが、休符をはさんで上行するその音形に既にリズム的ダイナミズムが感じられる。そして4回目にはや止まる事なく、ある意志的な力を持ちつつ曲が流れてゆく。

バードでは、祈りは教会堂の中でこだまする不特定多数のものであったが、バッハにおいては自己のアイデンティティーを獲得した近代人の祈りとなった。

しかしバッハはベートーヴェンのように次の時代を切り開いた作曲家ではなかった。彼はその大胆すぎる作風によって、最初は難解であると批判され、後年には古いとして一蹴されて時代の流れに取り残され、忘れ去られてしまった。ただその中であって、ある境地に達した巨匠だけが、いつの世もその真価を認めていた事は象徴的だ。モーツァルトは、旅行の途中立ち寄ったライプチヒで聴いた「主に新しき歌を歌え」に夢中になったという。そこには西洋音楽を貫いて流れる根本理念、すなわち「変奏」と「展開」が比類なき高さで具現化されているのである。この高みに到達した作曲家は、私は西洋音楽の全ての作曲家をあわせてもヨハン・セバスチャン・バッハ以外には居ないと確信している。

W.バード「4声のミサ」

1.Kyrie

Kyrie, eleison.
Christe, eleison
Kyrie, eleison.

* 以上は元はギリシア語。

2.Gloria

Gloria in excelsis Deo.
Et in terra pax hominibus bonae voluntatis.
Laudamus te. Benedicimus te.
Adoramus te. Glorificamus te.
Gratias agimus tibi
propter magnam gloriam tuam,
Domine Deus, Rex coelestis,
Deus Pater omnipotens.
Domine Fili unigenite Jesu Christe.
Domine Deus, Agnus Dei, Filius Patris.
Qui tollis peccata mundi, miserere nobis:
Qui tollis peccata mundi,
suscipe deprecationem nostram.
Qui sedes ad dexteram Patris, miserere nobis.
Quoniam tu solus sanctus.
Tu solus Dominus.
Tu solus Altissimus, Jesu Christe.
Cum Sancto Spiritu in gloria Dei Patris. Amen.

* 下線部：元はヘブライ語で「そうであるように」という意味を持ちます。

3.Credo

Credo in unum Deum
Patrem omnipotentem, factorem caeli et terrae,
visibilium omnium, et invisibilium.
Et (credo) in unum Dominum Jesum Christum,
Filius Dei unigenitum.
Et ex Patre natum ante omnia saecula.

Deum de Deo, Lumen de lumine,
Deum verum de Deo vero.
Genitum, non factum,
consubstantiali Patri:
per quem omnia facta sunt.
Qui propter nos homines
et propter nostram salutem descendit de coelis.

1.キリエ

主よ、憐れみたまえ。
キリストよ、憐れみたまえ。
主よ、憐れみたまえ。

2.グロリア

いと高きところでは神に栄光あれ。
そして地上では善意の人々に平和あれ。
汝をほめまつる。汝をたたえまつる。
汝を拝みまつる。汝を崇めまつる。
汝の大いなる栄光のゆえに汝に感謝し奉る。

神なる主、天の王、
全能の父なる神よ、
主の独り子、イエス・キリスト。
神なる主、神の小羊、父の御子。
世の罪を除きたまう方よ、我らを憐れみたまえ。
世の罪を除きたまう方よ、
我らの願いを聞き入れたまえ。
父の右に座りたまう方よ、我らを憐れみたまえ。
汝のみ聖なり。
汝のみ主。
汝のみいと高し、イエス・キリスト。
聖霊とともに父なる神の栄光のうちに。真に。

3.クレド

(我)信ず、唯一の神を。
全能の父、天と地、
見えるもの全てと、見えぬものの造り主。
更に(我信ず、)唯一の主イエス・キリスト、
神の独り子を。
そして(イエス)全ての世の前に
父より生まるる。
神よりの神、光よりの光、
まことの神よりのまことの神。
造られることなく、生まれ、
全てを造られた父と一体となる。

彼(イエス)は我ら人類のために
そして我らを救うために天より下りたる。

Et incarnatus est de Spiritu Sancto
ex Maria Virgine: Et homo factus est.
Crucifixus etiam pro nobis: sub Pontio Pilato

passus, et sepultus est.

Et resurrexit tertia die secundum Scripturas.

Et ascendit in coelum: sedet ad dexteram Patris.

Et iterum venturus est

cum gloria iudicare vivos et mortuos:

cujus regni non erit finis.

Et (credo) in Spiritum Sanctum

Dominum et vivificantem:

qui ex Patre Filioque procedit.

Qui cum Patre et Filio simul adoratur,

et conglorificatur:

qui locutus est per Prophetas.

Et (credo in) unam sanctam catholicam

et apostolicam Ecclesiam.

Confiteor unum baptisma

in remissionem peccatorum.

Et expecto resurrectionem mortuorum

Et vitam venturi saeculi. Amen.

4. Sanctus - Benedictus

Sanctus, sanctus, sanctus Dominus Deus Sabaoth.

Pleni sunt caeli et terra gloria tua.

Hosanna in excelsis.

Benedictus qui venit in nomine Domini.

Hosanna in excelsis.

* 下線部：元はヘブライ語で<ホシアナ>、「救いたまえ」という意味を持ちます。

5. Agnus Dei

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:

miserere nobis.

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:

dona nobis pacem.

そして聖霊により肉体を受け
処女マリアより出で、人と成りたもうた。

総督ピラトのもと、

我らのため十字架に付けられ、

苦しみを受け、葬られたもうた。

そして聖書の通り第三日目に蘇えられた。

そして天に昇り、父の右に座りたまう。

そして再び来たりて

栄光と共に生きる者と死せる者を裁かれる。

彼の王国は終わることなし。

更に（我信ず、）聖なる霊、

主にしてかつ生命を与えたもうたものを。

そは父と子より出ず。

そは父と子とともに拝まれ、

また崇められ、

そは予言者により語られたまえり。

そして（我信ず、）唯一、神聖、公にして

使徒継承の教会を。

罪の許しを得るための唯一の洗礼を認める。

そして死者の蘇りと

そして来世の生命を待ち望む。アーメン。

4. サンクトゥス - ベネディクトゥス

聖なるかな、聖なるかな、

聖なるかな万軍の神なる主。

汝（神）の栄光は天と地に満ちたり。

いと高きところに居ます方に万歳。

祝福あれ、主の御名によりて来たる者に。

いと高きところに居ます方に万歳。

5. アニウス・デイ

神の小羊、世の罪を除きたもう方、

我らを憐れみたまえ。

神の小羊、世の罪を除きたもう方、

我らに平和を与えたまえ。

使用楽譜 ・ "William Byrd: Mass for four voices" Edited by Henry Washington (CHESTER MUSIC)

対訳参考資料 ・ 音楽之友社「合唱事典」よりミサ通常文対訳

・ 音楽之友社「新音楽辞典・楽語」

来たれ、イエスよ、来たれ・BWV229

作曲：1730年頃

歌詞：パウル・テュルミッヒ（葬儀用）第1・2節

1. Komm, Jesu, komm, mein Leib ist müde,
mein Leib ist müde,
die Kraft verschwindt je mehr und mehr,
ich sehne mich nach deinem Frieden;
der saure Weg wird mir zu schwer!
Komm, komm, ich will mich dir ergeben,
du bist der rechte Weg,
die Wahrheit und das Leben.

2. Drauf schließ ich mich in deine Hände
und sage, Welt, zu guter Nacht!
Eilt gleich mein Lebenslauf zu Ende,
ist doch der Geist wohl angebracht.
Er soll bei seinem Schöpfer schweben,
weil Jesus ist und bleibt
der wahre Weg zum Leben.

1. 来たれ、イエスよ、来たれ、
我が体は疲れ、
力は次第に衰える。
我は汝の平和を請い願う。
辛き道は我にはあまりに荷が重し。
来たれ。我は汝に身を委ねる。
汝こそ正しき道、
真実であり生命なり。

2. そして我は汝の御手に身を委ね、
言う。この世よ、さらばと。
我が生涯はまさに終わりに向かうが、
霊は安らぎの地を得たり。
霊はその造り主のもとで漂う。
イエスは今もこれからも
生命への真の道であられるゆえ。

主に新しき歌を歌え・BWV225

作曲：遅くとも1727年4月

用途：不明

第1部：歌詞 - 旧約聖書詩篇 149.1～3

Singet dem Herrn ein neues Lied;
die Gemeinde der Heiligen sollen ihn loben.
Israel freue sich des, der ihn gemacht hat
Die Kinder Zion sei'n fröhlich über ihrem Könige,
sie sollen loben seinen Namen im Reigen;
mit Pauken und mit Harfen sollen sie ihm spielen

主に新しき歌を歌え。
聖徒は集いて主をたたえよ。
イスラエルはおのれを造りたまう方を喜ぶ。
シオンの子らはおのれの王によって楽しみ、
踊りにて主の御名を賛美せよ。
太鼓や豎琴にて主に音楽を奏でよ。

第2部：歌詞 - コラール：「わが魂よ、主を賛美せよ」ヨハン・グラマン(1530)作第3節、

アリア：出所不明（斜体文字）、後半は旧約聖書詩篇 84.11～12 と関連がある。

Wie sich ein Vat'r erbarmet
Gott, nimm dich ferner unser an,
üb'r seine junge Kinderlein, *Gott, nimm...*
so tut der Herr uns allen, *Gott, nimm...*
so wir ihn kindlich fürchten rein.
Gott, nimm...
Er kennt das arm Gemächte, *Gott, nimm...*
Gott weiß, wir sind nur Staub,
denn ohne dich ist nichts getan
mit allen unsern Sachen;
gleich wie das Gras vom Rechen, *Gott, nimm...*
ein Blum und fallend Laub. *denn ohne...*
Der Wind nur drüber wehet, *Gott, nimm...*
so ist es nicht mehr da,

ひとりの父が憐れむように、
神よ、我らをこれからも顧みたまえ。
幼い子らを憐れむように、神よ、...
主は、我ら皆に成したもう、神よ、...
我ら主を子供のようにひたすら恐れるゆえ。
神よ、...
主は造りたまうものの貧しさを認め、神よ、...
神は知る、我らが塵にすぎぬことを。
汝なしには何もできない、
いかなる我らのもくろみも。
それはあたかも熊手にかかる草、神よ、...
あたかも一輪の花、落ちゆく葉。汝なしには...
そこに風が吹いただけで、神よ、...
何も残らない。

*Drum sei du unser Schirm und Licht,
und trügst uns unsre Hoffnung nicht,
so wirst du's ferner machen.*

also der Mensch vergehet,
sein End das ist ihm nah.

*Wohl dem, der sich nur steif und fest
auf dich und deine Huld verläßt.*

ゆえに汝は我らの楯となり光となり、
希望が我らを欺くことなければ、
どうか汝が更なる希望を与えたまえ。
げに人は過ぎ行き、
人の最期、それは人の近くにある。
幸いなるかな、ただ一途にひたすら
汝と汝の恩恵に委ねるものは。

第3部：歌詞 - 旧約聖書詩篇 150.2/6

Lobet den Herrn in seinen Taten,
lobet ihn in seiner großen Herrlichkeit!
Alles, was Odem hat, lobe den Herrn,
halleluja!

主の成す御業ゆえ主をたたえよ、
主の大いなる栄光ゆえ主をたたえよ。
息あるものは皆、主をたたえよ、
(ヘブライ) 主を讃美せよ！

* 下線部・元はヘブライ語で「主を讃美せよ」という意味を持ちます。

- 使用楽譜 ・ EDITION PETERS: BACH MOTETTEN (旧バッハ全集準拠)
対訳参考資料 ・ H.リリンク指揮「バッハノモテト全集」(COCO-7479~80)
樋口隆一氏の解説と歌詞訳
・ 聖書(1970年新改訳)
・ 音楽之友社「新音楽辞典・楽語」

